

福岡教育大学特別支援教育センター
令和7年度第23回特別支援教育公開セミナー

第23回特別支援教育公開セミナーでは、「見えにくさのある重複障害児の教育支援」「聴覚障害児の音韻意識の発達と読み書き」「強度行動障害の支援」をテーマとした3つのセミナーを開催します。

各セミナーの詳細につきましては、下記をご覧ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

<各セミナー共通>

- ・参加費：無料
- ・対象：100名（小・中・高等学校、特別支援学校、幼稚園、大学等の教職員、学生、福祉等関係専門職従事者、一般市民）
- ・申し込み方法：各セミナーの申し込みフォームから締め切りまでにお申し込みください。なお、申し込み人数が100名に達し次第、申し込みの受付を終了させていただきます。本セミナー参加にあたり、配慮等を希望される方は申し込みの際にお知らせください。

<開催概要>

①「見えにくさのある重複障害児の教育支援－見え方と発達に応じた指導のあり方－」

日時：令和8年2月15日（日）10：00～11：30（受付開始 9：45）
講師：渡邊正人先生（鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース准教授）
開催形態：ZoomによるWebセミナー
申込フォーム：<https://forms.gle/4tQ8HzDfMnJQAqJA8>
締切：令和8年2月6日（金）



②「聴覚障害児の音韻意識の発達と読み書き～なぜ音韻意識が重要なのか～」

日時：令和8年3月8日（日）10：00～11：30（受付開始 9：30）
講師：渡部杏菜先生（国立特別支援教育総合研究所研究員）
開催形態：対面とZoomによるハイブリッドセミナー
※対面会場 福岡教育大学特別支援教育第一教棟1階特演1
申込フォーム：<https://forms.gle/QoHwL4Ukkdwu2oYu6>
締切：令和8年2月24日（火）



③「強度行動障がいを地域で支援するために～福岡市の強度行動障がい支援事業に触れて～」

日時：令和8年3月14日（土）10：00～11：30（受付開始 9：45）
講師：倉光晃子先生（西南学院大学人間科学部社会福祉学科准教授）
開催形態：ZoomによるWebセミナー
申込フォーム：<https://forms.gle/KRwu3k7aTBEAN9E78>
締切：令和8年2月24日（火）



講演内容の詳細は、裏面をご確認ください➡

<講演内容>

①「見えにくさのある重複障害児の教育支援―見え方と発達に応じた指導のあり方―」

講師：渡邊正人先生（鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース准教授）

略歴：千葉県立特別支援学校教諭（肢体不自由、盲学校、聾学校等）、

鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース講師

重複障害児は、障害を併せ有する状態にあるため、障害の種別、程度の重なりは多様にあります。重複障害児の実態を把握する上で、姿勢・運動、認知等の発達に加え、見え方やきこえ、身体の状態等について医療情報と照らし合わせて考えていくことが重要となってきます。教育機関で見え方を判断していく際には、教育的視機能評価を実施します。重複障害児の見え方を考えた場合、眼疾患に伴う見えにくさなのか、視覚認知に困難さがあるのか、肢体不自由の原因からくる見えにくさなのか、それとも多様な原因を併せ有しているのか等、丁寧に把握していく必要があります。重度・重複障害児の見え方となるとさらに慎重な判断が必要となります。今回のセミナーでは、重複障害児の視機能評価の方法にふれながら発達の視点に基づいた実態把握の重要性を再確認し、一人一人に応じた系統的で客観的な学習内容と評価のあり方について紹介していきます。

②「聴覚障害児の音韻意識の発達と読み書き～なぜ音韻意識が重要なのか～」

講師：渡部杏菜先生（国立特別支援教育総合研究所研究員）

略歴：神奈川県立平塚ろう学校教諭、筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター助教

読み書きの習得には「音韻意識」は不可欠といわれています。音韻意識は、言葉を構成している一つ一つの音に注意を向け、音の単位に気づき、その一つ一つの音を操作する力を指します。例えば、「さくら」という言葉があったら、「さ」と「く」と「ら」の3つの音から構成され、それらの音が「さ」→「く」→「ら」の順序で配列されることが分かるのは、音韻意識が形成されているからです。

本セミナーでは、聴覚障害児が抱える読み書きの問題について、音韻意識から考えていきます。聴覚障害児はどのように音韻意識を形成し、その過程でどのような課題が生じるのか、そして、音韻意識の形成がその後の言語発達にどのような影響を与える可能性があるのかをお話しします。その上で、聴覚障害児に対する音韻意識の形成と読み書きの習得のための教育的支援の視点についても提案します。

③「強度行動障がい地域で支援するために～福岡市の強度行動障がい支援事業に触れて～」

講師：倉光晃子先生（西南学院大学人間科学部社会福祉学科准教授）

略歴：社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会サンガーデン発達障害研究室室長、

西南女学院大学短期大学部保育科講師、福岡教育大学特別支援教育講座准教授

強度行動障がいは、「チャレンジング行動」ともいわれ、自傷行動、他害行動、破壊的な行動等を示す当事者自身や関わる他者の生活の質や身体的安全を脅かすような強度、頻度等で起こる行動で、その支援や対応に困難が生じるものとされています。またチャレンジング行動は、そもそも有する障がい特性で生じる置かれた環境での生きづらさ、負担や葛藤を環境に投げかける、重要な意味を有するものでもあります。しかし、強度行動障がいに対するサービス資源は長年十分になく、家庭で支援を抱え込む状況を招き、また施設虐待の1原因にもあげられています。

近年、国の強度行動障がいに対する地域生活支援体制の方針が示されましたが、福岡市では2006年から強度行動障がいの支援事業が始まり、様々な取り組みを実施してきました。このセミナーでは、強度行動障がいの実態、強度行動障がいを理解し支援を立てる枠組みを解説します。そして、福岡市の強度行動障がいの支援事業の取り組みを取り上げ、地域で支える体制について考える時間となればと思います。

問い合わせ先：福岡教育大学特別支援教育センター

(TEL) 0940-35-1559

(メール) tokusice@fukuoka-edu.ac.jp